

【ワクチンの種類と接種間隔】

公費で接種できる HPV ワクチンは、3種類あります。

＜サーバリックス:2価ワクチン＞ 3回接種

HPV16型、18型の感染による子宮頸がんを予防するワクチン

1回目	2回目	3回目
初回接種	1回目から1か月後	1回目接種から6か月後

※上記間隔で接種できない場合は、2回目は1回目から1か月以上、3回目は1回目から5か月以上、2回目から2か月半以上あけて接種をしましょう。

＜ガーダシル:4価ワクチン＞ 3回接種

HPV6型、11型、16型、18型の感染による病気を予防するワクチン

予防できるもの→子宮頸がん、尖圭コンジローマ

1回目	2回目	3回目
初回接種	1回目から2か月後	1回目接種から6か月後

※上記間隔で接種できない場合は、2回目は1回目から1か月以上、3回目は2回目から3か月以上あけて接種をしましょう。

＜シルガード9:9価ワクチン＞ 接種を開始する年齢により、接種回数が変わります。

HPV6型、11型、16型、18型、31型、33型、45型、52型、58型の感染による病気を予防するワクチン

予防できるもの→子宮頸がん、尖圭コンジローマ

1回目を14歳までに開始した方(2回接種)

1回目	2回目
初回接種	1回目から6か月後

※1回目と2回目の接種は、少なくとも5か月以上あけます。2回目の接種が5か月未満である場合、3回目の接種が必要になります。

1回目を15歳になってから開始した方(3回接種)

1回目	2回目	3回目
初回接種	1回目から2か月後	1回目接種から6か月後

※上記間隔で接種できない場合は、2回目は1回目から1か月以上、3回目は2回目から3か月以上あけて接種をしましょう。